

時間割コード	G2B65302	開講年度	2026				
授業題目	救急対応とテーピングゼミ					担当教員	廣野 準一
英文授業名	First Aid and Taping Class						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限 集中・不定期	対象学生	全
講義室	共通教育 3 7 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 的確に情報を収集し、理解し、発信する力				怪我や痛み等の問題に対する救急対応やその後のマネジメントができるようになる。学修の過程でコミュニケーションや資料作成の能力を養う。		
(2)授業で学べる「テーマ」	防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業では、怪我や痛み等の問題に対する救急対応やその後のマネジメントができるようになることを目指す。具体的には、普通救命講習を修了し、その他の遭遇しやすい問題への対応方法やテーピングの基礎技術を身につける。 テーピングや講習会資料購入のための必要経費（3,500円程度）がかかり、普通救命講習およびテーピングの集中授業と実技テストのすべてに参加し合格する必要がある。その他にもグループでの資料作成と発表や各種知識・技能の習得のため、平日空き時間や土日の活動も必要となる。これらに対応できることを履修の前提とする。						
(5)授業のキーワード	ファーストエイド、テーピング、グループワーク、フィールドワーク						
(6)授業計画	第2-4回（10/3午後）、第10-14回（11/28午前/午後、11/29午前）は、集中授業形式で実施する。 第1回 オリエンテーションとグループ編成 第2-3回 一次救命処置の理論と実践（心肺蘇生法とAED） 第4回 グループ発表と準備の説明 第5回 グループ発表（搬送法と救急車誘導） 第6回 グループ発表（止血法と固定法） 第7回 グループ発表（脳しんとう、熱中症への対応） 第8回 グループ発表（RICE処置、特殊な外傷への対応） 第9回 テーピングの理論 第10回 テーピングの実践（扱い方、テーピングの種類、巻き方の種類） 第11回 テーピングの実践（足関節のアンダーラップからステアアップまで） 第12回 テーピングの実践（足関節のホースシューから最後まで） 第13回 テーピングの実践（足底／膝関節／アキレス腱） 第14回 テーピングのテストと改善レポート 第15回 まとめ すべての授業終了後、授業アンケートを実施する。						
(7)成績評価の方法	以下を総合して評価する。 取り組み（40％） 資料提出（30％） テーピングの実技テスト（30％） なお、成績評価のためには、15回の授業中12回以上の出席、3つの項目すべてでの得点が必要となる（集中授業すべてへの出席が必要）。詳細は成績評価の基準に示す。						
(8)成績評価の基準	以下の3つの観点から評価する。 取り組み（40点） 普通救命講習（10点）：普通救命講習の理論と実技講習を受け、所定の過程を修了する。 取り組み（30点）：各回の授業での取り組み姿勢について評価する。 資料とグループ活動での班への貢献度（30点） 資料（20点）：グループ発表の資料を提出し、内容に応じて評価する。 グループ活動での貢献度（10点）：発表準備時のグループ活動について、メンバーで相互に貢献度の評価をすることで得点をつける。 テーピングの実技テストとレポート（30点） 実技テスト（20点）：足関節のテーピング実技能力についてのテストを行い、その出来を評価する。 レポート（10点）：テストでの評価をもとに、自身に必要な取り組みを考察するレポートを提出する。 資料とレポートの評価：課題に沿った必要な取り組みや情報の記載ができている場合は60%、特に教員を感心させるレベルであれば100%とし、程度に合わせて評価する。未提出や欠席は評価ができないため0点、遅刻や早退、提出遅れ等は減点の対象とする。						

(9)事前事後学習の内容	グループや個人の課題について取り組むことで、事前事後学習とする。詳しい内容は、授業時に指示をする。なお、特にテーピングのテストは、集中授業以降の事後学習が極めて重要である。 この授業は90時間の学修を必要とする内容のため、60時間以上の時間外学習が必要となる。
(10)履修上の注意	1. 実施受講希望者が多数の場合、抽選等により受講者を決定する。抽選参加には、第1回授業の動画視聴とアンケートへの入力を必須とする。 2. 第2-4回（10/3午後）、第10-14回（11/28午前午後、11/29午前）は、集中授業形式で実施する。その日程の確保が必須である。 3. 実技には経費（テーピングと一次救命処置のテキストと消耗品で3,500円を予定）がかかる。授業履修のために必須の経費であり、支払いができることが履修の前提条件とする。 4. 成績評価のためには、15回の授業中12回以上の出席、3つの観点すべてでの得点が必要となる。 5. 遅刻・早退は授業前後30分以内とし、30分以上の遅刻・早退は、欠席と同等となるため注意すること。ただし、参加自体を妨げるものではない。
(11)質問、相談への対応	原則として授業前後の時間で対応し、その他はメールにて対応します。メール送付時は、新入生ガイドブックのメールの送り方を確認してから送ること。 【E-mail】廣野準一 hirono@shinshu-u.ac.jp
(12)授業への出席	授業は全ての回に出席することを前提とするが、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席した場合を含め、4回以上の取り組み確認ができない回がある場合は、単位認定を行わない。長期の入院等で、長期間授業に参加できない場合は、速やかに授業担当教員に申し出て指示を仰ぐこと。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」による欠席の場合、欠席者から担当教員への連絡および客観的に確認できる証明を持って内容が確認できた場合に限り、都度状況に応じた課題を与える。提示された課題への取り組みにて、当該回の取り組みを評価する。
【教科書】	なし
【参考書】	応急手当指導者標準テキスト改訂委員会, 応急手当指導者標準テキスト ガイドライン2020対応, 東京法令出版, 2022 日本スポーツ協会, アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割, 日本スポーツ協会, 2022 日本スポーツ協会, アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防, 日本スポーツ協会, 2022 日本スポーツ協会, アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応, 日本スポーツ協会, 2022 日本スポーツ協会, アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価, 日本スポーツ協会, 2022